

学校教育目標

やさしい心
じょうぶな体
考える力

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

多くの児童が本好きで、読書量も増加しているが、調べ学習等で図書館を利用する機会は少ない。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学び、考え、表現しようとする意欲と態度を育てる。

ねらい

- ① 児童の読書意欲を高め、豊かな心と幅広い知識を身に付ける。
- ② 図書館利用についての指導を充実し、図書館活用の望ましい態度と技能を高める。
- ③ 目的に応じた情報を選び、課題解決を図るための情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 可書教諭を中核とした学校図書館教育の推進を図る。
- ④ 読書科を通して、より本に親しんだり、情報を取り出したりし、読書科の活性化を図る。

各学年の重点目標

第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で本を選び楽しんで読書しようとする態度を養う。 ・学校図書館の利用のマナーがわかり、親しんで利用する態度を養う。 	第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な読み物に興味をもち進んで読書しようとする態度を養う。 ・日本十進分類法のおおまかについて理解し、資料を探し、使えるようにする。 	第五学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通して考えを深めたり、広めたりしようとする。 ・目的に応じて学校図書館を適切に利用し、資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付けることができるようにする。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい読み物に興味をもち、進んで読書しようとする。 ・資料を使って楽しく調べ、紹介しようとする態度を育てる。 	第四学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする態度を養う。 ・調べ学習に意欲的に取り組み、資料から必要な情報を抜き出そうとする態度を育てる。 	第六学年	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な本を選んで読む習慣を定着させる。 ・課題に応じて資料を選び、自分の考えを分かりやすくまとめる表現する力を高める。

具体的な取組

〔各教科〕

- 学校図書館を進んで活用し、課題解決学習、調べ学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 計画的に読書指導を行い、読書習慣、態度を養う。

〔総合的な学習の時間〕

- 学び方や考え方を身に付ける。
- 課題の解決、探究に主体的に取り組む。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

〔特別の教科 道徳〕

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接することで道徳的心情を豊かにする。

〔読書科〕

- 「西っ子読書郵便」「リーディングハブディ」「朝読書」等による読書への意欲の向上を図る。
- 各学級の読書科を通して、読書の幅を広げようとする態度を育てる。

〔特別活動〕

- 図書委員会において、児童が協力して自主的に学校図書館を運営しようとする態度を育てる。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用し、様々な取り組みに生かそうとする態度を育てる。

〔家庭・地域・区立図書館職員との連携〕

- 「図書ボランティア」による「読み聞かせ」を実施する。
- 夏季長期休業を利用した親子読書の推進をする。
- 小松川図書館との連携による、資料の充実を図る。

朝読書の推進

推進組織の確立・充実

図書館経営評価の実施

図書環境の整備・充実